

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	TOUR SiC	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.590	△RG	0.032	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TOUR SiC

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

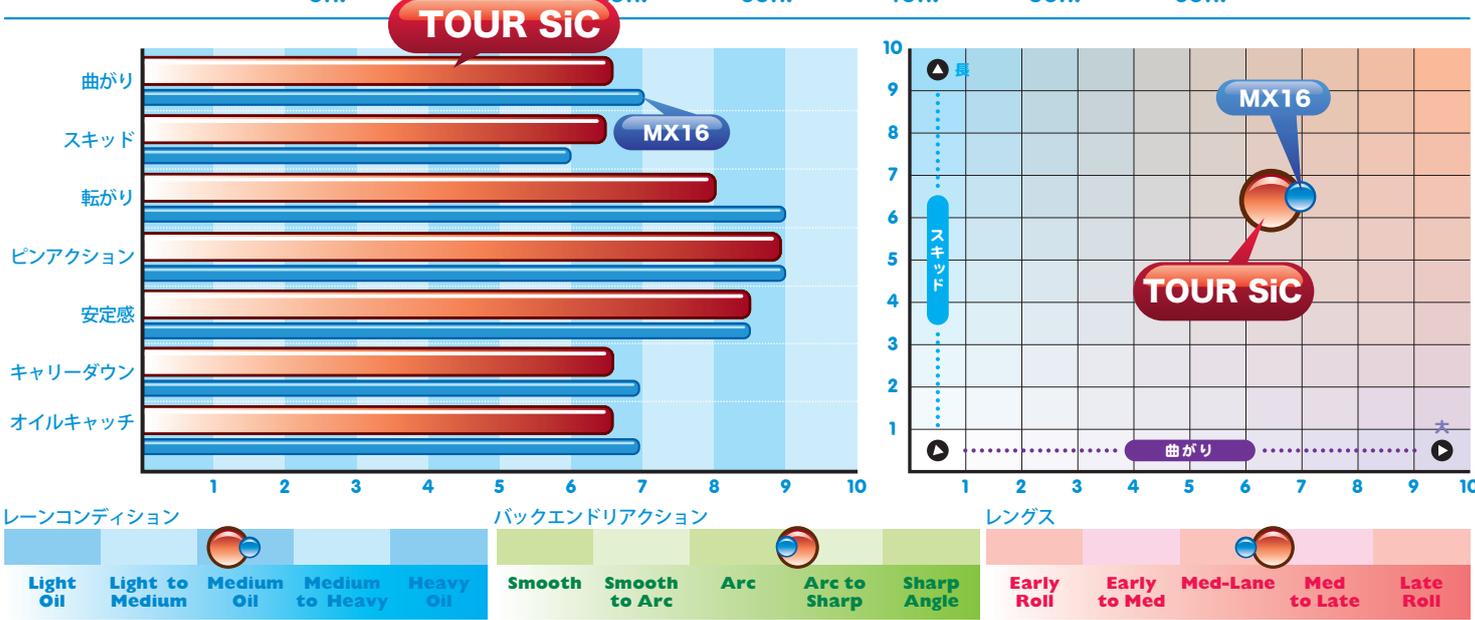
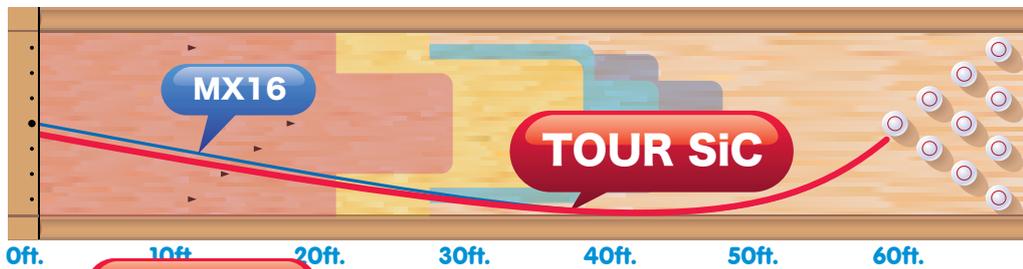
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：MX16

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

JPBAシーズントライアル2014オータムシリーズABS専属川添奨太プロで勝利を呼んだTRACK社のTOUR SiC。コアはTRACKで人気の高いI-Core(Dual Density) を使用しています。このI-CoreはRGと△RGを広範囲で設定できる万能性の高いコアで、SiCでは高慣性・低△RG(15 LB. - 2.59 15 LB. - .032)へ変化させ、バックエンドまでエネルギーを貯める設計になっています。

パフォーマンスを担うカバーストックはMR-6 SOLID。SOLIDカバーストックでも”6”レベルのカバーなので、キャッチが前面に出る傾向ではなく、ミッドエリアでの安定した軌道から持続性のある曲がりてフィニッシュします。

Mx16との比較投球ではMR-8 HybridとMR-6 SOLIDの差もしっかりでて、Mx16の強さを感じます。

Mx10とでは同じMR-6カバーですがHybridとSOLIDの差は顕著で、SiCのミッドエリアの安定感とは比べ物になりません。今回のSiCはややキャッチが強めに感じるカバーを搭載していますので、バックエンドまでの動き幅をカバーストックのキャッチとコアの数値でバランスよく調整されているのがわかります。そして驚いたのが、もともと非対称のコアテクノロジーのI-CoreコアをAsymmetrical(非対称コア)のままボールのマスバイアスマーキングを消せるまでの変化を可能にさせているTRACKのコアテクノロジーの高さに驚きです。MediumからMedium Light対応で使用用途もかなり広さを感じます。実用性の高さ、ピンアクションまでの良さを踏まえると、このボールに死角はありません。

特記事項

I-Core(Dual Density) 比重変更バージョン。
 マスバイアスのマーキングなしでドリルレイアウトも選択の幅も増えました。